

前橋に「モノ×コト×ヒト」の交流拠点

ヤマト、オリコンサルら出資のSPC、道の駅開業

わが国初の計画付き事業者公募を採用し、独立採算型PFIと公設民営の複合型による官民連携手法で整備を進めてきた、道の駅「まえばし赤城」が開駅した。基本計画段階から事業者に選定されたロードステーション前橋上武（前橋市、町田豊社長）が設計・建設・運営を一貫して担う。

道の駅「まえばし赤城」は、前橋市田口町の国道17号と上武道路の交差点に位置する、群馬県内で33番目の道の駅となる。事業会社はヤマトとオリエンタルコンサルタンツ、オリエンタル群馬が出資する特別目的会社で、2018年12月に前橋市とPFI特定事業契約を締結している。

施設は、「モノ×コト×ヒト」の交流拠点をコンセプトに、「日本一、市民に愛される道の駅」として、買い物・食べる・リラックス・遊ぶ・交流・体験の六つの楽しみ方を提案し、一日中、前橋・赤城を楽しめる施設を目指している。延べ床面積8,151平方メートル、敷地面積7万1,656平方メートルはともに国内最大級となる。飲食・物販店舗や約200席のラウンジ、農産直販売所、温浴施設、芝生広場、観光案内所、展望デッキなどのほか、小型車414台、大型車75台などの駐車場を備える。



提供・ロードステーション前橋上武



提供・前橋市

開駅式には、山本龍前橋市長や国土交通省の清水真人大臣政務官、真庭宣幸群馬県県土整備部長のほか、周辺6自治体の首長など関係者約300人が出席し、オープンを祝った。